
リボーンに転生トリップしちゃいましたー!?

水月穂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リボーンに転生トリップしちゃいましたー！？

【Zコード】

Z0132Z

【作者名】

水月穂

【あらすじ】
はい、はじめまして

水月穂です

フラン大好きです

設定

吹雪 雪

大人しくて優しい性格

いつもニコニコしていて皆を癒してくれる

喋り方はフランと同じ

転生する前は中二

二重人格で普段は優しくて冷静だがもう一つの人格は残酷で熱い性格
もう一つの人格の名前は霰あられ

そのせいでかなり頭を悩ませてる

転生する前、事故で家族全員死んでる

属性は大空の七属性と雪

武器は幻術、ナイフ 霰の時に使う、扇

吹雪 霰

事故で死んだ雪の姉

熱い性格

今は人格として雪の中に取り付いてる

属性、雪の説明

雪の炎は白くて雪の結晶が舞っている

雪の特性は凍結

プロローグ

雪 side

部活で遅くなりました

買い物して帰らないとです

今日はテストで100点取ったから豪美にハーゲンダッツでも買いましょうかね……

ん?

猫「ニャン」

猫が道路に飛び出しました

危ない!!

ミーは咄嗟に猫を庇つて宙に舞いました……

朦朧とする、意識の中で見たものは、血まみれになつてゐる猫です……

……守れなかつたんですね

そこで私の意識がなくなりましたー

雪「「」は真っ白な部屋

「何処ですか？」

猫「ニヤン」

雪「お前も来たんですか？」

猫「そりだよ、雪ちゃん」

雪「へ？喋った！？」猫『私の言葉が分かるのー？』

ガチャ

雪、猫「？？？」

？？？「えつと……その……スマン……」

雪「なんで謝ってるんですか？」

？？？「わしは神様なんじゃが、おぬしを誤つて殺してしまったん
じや」

雪「それは仕方のない」とですよ、命あるもの必ず死ぬんですから

神様「じゃが…………そりだ……おぬしをリボーンの世界に転生させ
てやる」

雪「本当ですか？！」

神様「ああ、そのかわりアルゴバレーノになつてもううがな

雪「へー?」

神様「おぬしには雪といつ珍しい属性があるかい

雪「そうなんですか……分かりました」

神様「原作ブレイクもやつていいし、あと、未来編に近づいてきたらちょうど強力なおしゃぶりケースをやろう」

雪「分かりました」

神様「それとその猫をペットにもして良いぞ?」

猫『やつた』

神様「雪の炎の特性は凍結じゃ、くれぐれも気をつけよいつ

雪「はい」

一話 アルゴバレーになる日

雪 side

あれから3年が経ちました……

三年間の事を纏めると

1・私は大空の七属性全部を持つてていること

2・神様から連絡があつて虹の属性つていうイレギュラーがある

3・原作にはでこないイレギュラーが出てくる可能性がある

4・早速虹の波動を持つイレギュラーを発見

5・フランが虹の波動を持ち、今日、一緒にアルゴバレーになる

6・私とフランは幼なじみ

7・なんだかんだでフランと一緒に骸との修業を受けている

……しかしフランと幼なじみでイレギュラー化するなんて驚きです

だってフランは私の見たところ十代、でもそれは十年後の歳であつて、原作突入時はまだ一桁の歳のはず……

しかもこれは原作突入時の十年前くらい……

あ、そういえば九代目はもうシナに会いましたかね？フラン「雪？」

行きましゅよー?」

雪「うん」

因みに私が転生者とこ「う」とせ言ったよ

師匠にも……

ちやんと受け止めてくれて嬉しかったな

あ、因みにこじはイタリアのホテル

とつあえず幻覚で親を作つといった

雪「行こへ、フラン

フラン「はーー」

待ち合わせ場所

? ? ? ? 「遅い……」

? ? ? ? 「ムムッ……僕を待たせるなんて罰金だよ」

? ? ? ? 「じょうがないですよ、まだ三歳児なんですか?」

? ? ? ? 「わづよ……それにそろそろ来るわ

? ? ? ? 「しかし、なんであんな小さな子が選ばれたんだ?」

？？？「あいつら小さいながらかなり凄腕のヒットマンだ

？？？「あんな小さい子供がか！？」

？？？「俺が調べたところ、最近有名になってきた奴らだ

？？？「通り名は？」

？？？「コンビ名はアルカンシャル・ネージュ、通り名はフランの
ほうが虹の幻術師、雪のほうが一重の雪」

？？？「一重？」

？？？「由来は一重人格で普段は穏やかで殆ど幻術で倒してるがもう一つの人格は熱く残酷にナイフで殺して来た、雪の通り名は後二つ有るが聞くか？」

？？？「どんな通り名？」

？？？「雪の舞姫、雪の切り裂き姫」

雪「…………何勝手に入ることはなしてるんですか？」ヴェルデ

ヴェルデ「ふん、何故お前達が最強の九人に選ばれた理由を話してただけだ」雪「あ、そう」

フラン「えっと

雪「遅れました、先輩方」

フラン「すいませんでしたー」

リボーン「棒読みで言われてもな」

フラン「あ、これがニーの喋り方でしゅのでー」

雪「早く逝れよしよ」(1/1)

ルーチエ「漢字が違うわよ……」

雪一とこりでお腹の赤ちゃん元気ですか

ルーチエーええ」

「よか」たであ

ルーチェーありがとう

リボーン——あの——人……気が合うみたいだな」

「アラン、二人とも、人を疑う事を知りませんから」

リボン一言にしゃねえか……氣に入つた」

ルイ・アル芒

「バイパー」「和んでる暇があるなら早く目的地に行つたほうがいいと思つよ」

あんまし行きたくないけど

しょうがないよね……

ルーチュもそれを覚悟の上でアルコバレーになつたんだから私も逃げちゃダメ！！

そして山道

そろそろかな？

ザツ

ラル「誰だ！？」

？？？「俺だ、コラツ」

「ラル」……「ロロネロ？」

「ロロネロ」「そうだ、コラツ」

雪「着いて来たんですね」

「ロロネロ」……「小さ」子供？か、コラツ

雪「失礼なお兄ちゃんです」

フラン「まあまあ

「ロロネロ」ヒルヒルヒルヒル、わきからつこして来てるんだけぢ？」「

猫『雪ちゃん』

雪「ミルク?...」

ミルク『ついて来ちゃった』

雪「どうして...」

ミルク『だつて雪ちゃんが心配なんだもん』

雪「ミルクが私を心配してくれるのは嬉しいけど...」

リボーン「...? 猫の言葉が分かるのか?」

フラン「動物の言葉が分かるらしいでしゅー」

リボーン「ほひ」

ルーチュ「素晴らしい能力ですね」

そしてなんだかんだで山の頂上

ラル「口口ネロは離れていろ」

口口ネロ「...? 分かつたぜ... ロララッ」

フラン「疲れましたー」

雪「私も...」

フラン「あれは……」

雪「ヒツヒツです」

フラン「ヤジですねー」

グワッ

一回・雪、ルーチュ「……？」

今私達の田の前にじす黒いものが迫つてきています

フラン「怖い……」

雪「フラン……」

ギュッ

フラン「……？」

雪「大丈夫ですよ、私がついてます」

フラン「はいー」

口ロネロ「くつーー？」

呪いが掛かる瞬間、口ロネロが飛び出しましたー「ラル「……？」口ロ
ネローー！」

ピカッ

雪「えっと」

フラン「ハーハー（。 。 ）」

雪「フラン……だよね？」

フラン「はこー……雪……でしゅか？」

雪「うそ」

フラン「田線が低いでしゅー」

雪「私達はそんなに変わらない気がしますけど？」

フラン「それもねりでしゅーねー」

一回・雪、フラン「…………」

雪「やつぱいの運命はまだ誰も受け止められませんか…………」

フラン「この体、成長しないんでしょよね？」

雪「大丈夫ですよ」

フラン「？？」

雪「ルーチェ、帰つてもいいですか？」

ルーチエ「ええ、解散よ」

雪「行きますよ」

「待つてくださいー」

リボーン「…餓鬼は無邪気だな」

風「でも、ルーチュの優しさとの子達の無邪氣さがあつたから、
私達はうすくけられたんですよ」

リボーン「言えてりあ」

こうして、私達のアルコバレーになつた日は終わりました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0132z/>

リボーンに転生トリップしちゃいましたー!?

2011年12月1日16時45分発行